

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670103524
法人名	医療法人 起生会
事業所名	グループホーム ハートフル林
訪問調査日	平成20年6月27日
評価確定日	平成20年7月28日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670103524
法人名	医療法人 起生会
事業所名	グループホーム ハートフル林
所在地	鹿児島市西田三丁目15番5号 (電話) 099-257-6977

評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成20年6月27日

## 【情報提供票より】(平成20年6月9日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年2月		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	6 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 6 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り
	4階建ての2, 4階

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500~39,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(6月9日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	0 名	要介護2	6 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	79 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	林内科胃腸科病院
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、鹿児島中央駅から歩いて5分ほどの距離で、交通の便に恵まれた場所に位置している。隣接の母体病院による医療面での支援体制が充実していることは、入居者やご家族にとって大きな安心となっている。建物の1階部分には整骨院やテナントが入り、3階部分には有料老人ホームがあるため、様々な連携や交流が行われている。居室は広々としており、窓は大きく開かれて明るい雰囲気を感じさせる。4階のベランダには菜園が設けられ、収穫した野菜は食卓に上り、楽しい食事に活かされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果についてはミーティングで報告され、その後、改善策が練られて実行されたものがある一方、残された課題もある。ホームだけで解決できる事は限られているが、引き続き前向きな取り組みに期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、サービス評価の目的や意義を職員に説明し、全員で自己評価を行っている。評価後の見直しや、外部評価の改善課題についても全員で検討し、着手できるものから改善に向けて取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は3ヶ月毎に開催し、ご家族や町内会役員の出席がある。ホームの現状や行事の報告、町内会行事の報告などがあり、それぞれの立場から意見をいただいている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議や年2回の家族会で、意見を出していただくように働きかけている。ご家族等から意見や苦情、不満が出された場合は、月1回のミーティングで検討し改善する体制となっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、ボランティアの受け入れを随時行っているが、地域活動には、今のところ参加していない。今後はホーム側からも、積極的に地域活動に参加して交流機会を持つことが期待される。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしく、これまでの人生を大切にして、安らぎのある生活をしていただく」という事業所独自の理念をつくりあげている。	○	地域密着型サービスとして、地域生活の継続的支援や地域との関係性を盛り込んだ理念を検討していただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に、全職員で理念の唱和を行い実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、ボランティアの受け入れを随時行っている。地域の活動には、今のところ参加していない。		ボランティア等の受け入れは行われているので、今後はホーム側からも、積極的に地域活動に参加して交流機会を持つことが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、サービス評価の目的や意義を職員に説明し、全職員で自己評価を行っている。評価後の見直しや、外部評価の改善課題は全職員で検討し、着手できるものから改善に向けて取り組んでいる。		残された課題についても、前向きに取り組んでいただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月毎に開催し、ご家族や町内会役員の出席がある。ホームの現状や行事の報告、町内会行事の報告などがあり、それぞれの立場から意見をいただいている。	○	引き続き、市担当者や地域包括支援センター職員、民生委員や老人会役員の方などに対して、会議への参加を働きかけていただきたい。また、ホームの行事や状況報告にとどまらず、サービス評価への取り組み状況や課題の改善に関する話し合いがなされることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、地域包括支援センター主催の会議へ出席している。介護認定更新等の申請で、市の担当課へ定期的に出向いているが、窓口対応で止まっている。	○	地域包括支援センター主催の会議出席や、行政窓口への申請機会に、運営推進会議への出席を働きかけるとともに、日常的に行き来する関係を築けるように取り組んでいただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料の支払いを直接行われるご家族に対しては、訪問時に入居者の暮らしぶりや健康状態を伝え、出納帳の確認もしていただいている。健康状態等に変化があった場合や緊急の場合には、電話で報告している。しかし、訪問頻度が少ないご家族に対しての日常的な報告は十分とは言いがたい。	○	訪問頻度の少ないご家族にも、定期的に入居者の様子や職員の異動等について報告できる方法を検討していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や年2回の家族会で、意見を出していただくように働きかけている。ご家族等から意見や苦情、不満が出された場合は、月1回のミーティングで検討し改善する体制となっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に異動は行わない。日頃から2階、4階合同で催し物などを行い、入居者と職員がそれぞれの階で交流を図り馴染みの関係が築かれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、法人内研修、ホーム内研修には平等に参加できるように、勤務上の配慮がなされている。研修後は報告書を作成して月1回のミーティングで報告を行い、職員全体のレベルアップに努めている。	○	さらなる質の向上のために、職員の経験や立場、習熟度に応じて、段階的に育成するための研修計画を作成し取り組むことを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に加入し、管理者を中心に同業者と交流する機会を持っている。		職員間での勉強会や交流機会を持つことで、サービスの質がさらに向上するような取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者本人の生活歴等について情報収集した上で、馴染みやすい関係づくりに配慮している。入居者によっては、ご家族の面会頻度を多くしてもらうことで、早くホームに馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	傾聴や声かけを常に行い、その時々感情を理解するよう努めている。配膳や片付け、野菜作りなどを一緒に行い、入居者と職員が共に助け合い、労い、分かち合いながら支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や他の関係者から情報を収集した上で、普段の会話や日々の関わりの中で、入居者の希望や意向を汲み取りながら本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者およびご家族の意向や希望を確認した上で、ミーティング等で情報収集を行い介護計画を作成している。できあがった内容は、ミーティング時や必要な場合には随時発表され、全職員が把握できるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しがなされ、入居者の状態やケアの内容に変更が必要な場合には随時、現状に即した介護計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制が整っており、健康管理は十分に行われている。定期的な通院やリハビリの送迎、予定外の外出や緊急時の対応など柔軟な支援がなされている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望するかかりつけ医となっている。協力病院から定期的な訪問診療が行われ、必要に応じて訪問看護も利用できる。かかりつけ医以外の医療機関とも、連携がとれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に「重度化した場合の対応に係わる指針」を表題にした意思確認書により、事業所の方針を説明して同意を得ている。また状態の変化があるたびに、本人およびご家族の希望や思いを聞き、関係者で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の人格を尊重し、誇りを損ねるような対応を行わないよう心がけている。個人情報保護法についても熟知しており、記録類は適切に取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての1日の流れは決まっているが、入居者それぞれのペースや考えを尊重しながら、せかさずに見守りや必要な部分の介助のみを行うよう心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の準備や配膳、下膳は、入居者の能力や好みを見極めながら職員と一緒にしている。菜園で育てた野菜が献立に使われており、楽しい雰囲気です。食事を楽しむことができるように工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間は一応決まっているが、その日の体調や気分に合わせて、4階の小浴場、2階の大浴場で入浴を楽しめるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時に収集した生活歴等の情報に加え、レクリエーションや日常の会話の中で、得意なものや好きなことなどを把握して、能力を活かせる場面づくりを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、ご家族が同行しての墓参りや散髪など、入居者の希望にそって外出できる体制がある。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は施錠していない。18時30分に施錠するが、面会者はインターホンで確認してリモコンで開錠できるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力により避難訓練を行い、避難経路の確認や入居者の誘導等について学んでいる。近くの商店等に入居者と一緒に買い物に行き、顔を覚えてもらうことで、必要な場合には協力がもらえるように働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎日記録されており、水分量は概ね確認している。10時と15時にお茶の時間があり、飲む量が少ない入居者については、ペットボトルに水を入れて居室に常備している。		定期的に献立表を管理栄養士にチェックしてもらい、専門的な立場から助言を受けることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングルームにはテーブルセットやソファが置かれ、ゆっくりと好きな場所でくつろげるようになっている。広い花壇には、季節の野菜や花々が植えられている。見通しの良い空間に、広い窓から自然光が豊富に入り、居心地良く過ごせる雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドと洗面台は、ホーム備え付けのものである。入居者が使い慣れた家具類をはじめ、仏壇や遺影などが持ち込まれており、それぞれに落ち着いて居心地良く過ごせるような配慮がなされている。		